

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570300628		
法人名	有限会社 タカノホーム・スイート		
事業所名	グループホーム おいでませ		
所在地	山口市大内御堀847-1		
自己評価作成日	平成28年2月22日	評価結果市町受理日	平成29年6月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成29年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「人間としての尊厳を大切に、家庭的な雰囲気の中で入居者の自己決定を大切に、住み慣れた環境でその人らしく日常生活を送ってもらえるよう支援します」を理念に、安心できる環境づくりを目指し、笑顔で穏やかな日々が過ごせるように努めています。おいでませでは職員一人一人の向上心を大切にしており、学ぶ機会また意見や情報交換をする場を作る等、個々がスキルアップできる環境づくりに力を入れています。また日常生活の中ではボランティアを積極的に受け入れ、楽しんでいただけるよう支援しています。(コンサート、ハーモニカ演奏会、3B体操、メイクアップ講座、フラダンス、習字、コーラス隊、ブラスバンド演奏会等)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ボランティア(コンサート、ハーモニカ演奏会、メイクアップ講座、フラダンス、習字、コーラス隊、ブラスバンド演奏会)との交流や家族交流会、早口言葉、じゃんけん遊びなど、利用者が笑顔で穏やかに日々が過ごせるよう、楽しみごとを多く取り入れて支援しておられます。季節の花見やドライブ、ウッドデッキでのティータイムや日向ぼっこ、家族の協力を得ての法事や孫の結婚式への出席など、戸外に出かけられるように工夫して支援しておられます。外部研修の機会を職員の段階に応じて提供しておられる他、内部研修では、職員が交替で講師を務められて、月1回実施しておられるなど、職員のスキルアップに努めておられ、利用者がその人らしく日常生活を送ることができる支援に活かしておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をいつでも目に入るよう事務所に掲示し、職場全体で周知するよう努めている。内部勉強会や外部研修の前等に理念を確認し、理念にもとづいた成果が得られるよう意識付けをしている。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念をつくり、事務所内に掲示している。職員は、ミーティングで話し合ったり、申し送りノートで共有し、理念に沿ったケアができているか振り返って、実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、防災訓練・行事等に参加していただいている。おいでませ便りを年4回配布。掲示板を設置して通行者にも取り組みを発信している。またボランティアを積極的に受け入れている。	自治会に加入している。利用者は職員と一緒に地域の小学校の催し物に参加している。ボランティア(コンサート、ハモニカ演奏会、メイクアップ講座、フラダンス、習字、コーラス隊、ブラスバンド演奏会)の来訪が定期的であり、交流している。近くにある同系列の有料ホームの入居者と交流している。事業所便りを年4回発行し、地域へ情報を発信している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	二ヶ月に一回の運営推進会議で議題にして、意見を求めている。自治会の方々に出席をお願いしている。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、向上に役立てようとの意識はあるも職員全体とまでは言えず。外部評価内容を施設内・運営推進会議で報告し評価を参考にしているが、具体的な取り組みまでいっていない。	管理者は評価の意義を職員に説明し、自己評価をまとめ、幹部職員会議で検討し全職員に回覧している。全職員での取り組みにまでは至っていない。前会の外部評価結果を受けて、運営推進会議やミーティングで話し合い、事故対策委員会を設置し一人ひとりの事故を分析し、事故防止に努めている他、防災訓練を運営推進会議と同日に開催し、地域の住民(数名)や家族の参加を得たり、外部研修の参加の機会を増やし、職員が研修会の講師を務めて、職員を育てる取り組みを行っているなど、できるところから改善に取り組んでいる。	・全職員での自己評価への取り組み	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を年6回実施し、意見をもらい、話し合い、サービス向上に努めている。地域の出席者から出た意見や疑問を受け止め、次回開催までに改善策を話し合い、発表できるように努めている。	会議は年6回実施し、利用状況や活動報告、事故やヒヤリハット報告などを行い、意見や助言を得ている。でた意見や助言をミーティングで共有し、サービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	山口市介護サービス連絡協議会に加入し本部会・施設部会に参加。研修会も参加し、情報提供や収集を行っている。山口市介護保険課及び高齢障がい課と連携をとっており、運営推進会議後議事録を届け取り組みを知っていただいている。	市担当者とは、運営推進会議を直接窓口にて持参し助言を得たり、日ごろから電話等で相談している他、市の介護サービス連絡協議会に参加して情報交換を行っているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしないケアを原則として、全員が理解に努めお互い注意しながらケアを行っている。研修に参加し内部研修を開き皆の統一を図る。玄関については安全面を優先して、消防に届け出の上施錠を選択している。	外部研修を受講した職員が講師となり、内部研修で復命して学び、全職員は理解して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックで気になるところは日常的に職員間で話し合ったり、管理者が指導している。外に出たい利用者とは職員と一緒に出かけている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自身・他者を含め、現場で虐待が起こっていないか注意を払いケアにあたっている。入浴時に全身観察をし内出血等の確認。また研修に参加し、内部研修で職員の周知の徹底を図っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度利用者、一名あり。制度について職員間で周知できるよう、勉強会の実施。(外部研修に参加し報告・資料配布)		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・解約書を提示しながら説明を行い、意見や不安、疑問点を尋ね充分納得された上で契約・解約としている。改定も同様。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置。利用者の一ヶ月の様子を毎月手紙にし送る事で利用者の日常の様子を知らせている。また運営推進会議や家族会、面会時の積極的な会話で意見を求め、役立てている。	契約時に相談や苦情の受付体制や処理手続き、第三者委員について、家族に説明している。玄関に意見箱を設置している。運営推進会議参加時や家族交流会時、毎月送付する手紙に意見を聞く欄を設けて、家族の意見や要望を聞いている。意見や要望があれば申し送りノートに記載し、職員が共有している。ケアに対する要望にはその都度対応している。運営に反映させるまでの意見は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングで職員の意見や提案を話し合い反映させる。毎朝のミーティングに施設長・管理者も参加。不定期であるが施設長による職員の個人面接もあり。	月1回のミーティングや面接、毎朝のミーティング等で職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、年1回の施設長による個人面談の機会を設けて聞いている。職員は、日頃から意見や提案を申し送りノートに記録し、管理者や計画作成担当者と話し合っている。毎月の幹部会議(社長、施設長、管理者等5人)で職員の意見を検討し、運営に反映させている。利用者一人ひとりに応じた服薬介助の方法を職員間で統一している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	できるだけ希望する勤務体制となるよう、意見・要望も取り入れるよう配慮している。仕事に関しての意見も言いやすいように職員間の信頼作りも大切にし、やりがいに繋がるよう努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に積極的に参加できるよう参加費の一部を補助している。また月に一回勉強会を行い勉強したことを発表し合ったり、外部講師を招き、より専門的に学んだりしている。新人教育に関してはチェックリストを活用し新人育成に取り組んでいる。	外部研修は、職員に情報を伝え、段階や希望に応じて参加の機会を提供している。今年度は15回受講し、受講後はミーティングで復伝し、職員間で共有している。内部研修は、月1回、職員が講師を務めて実施し、認知症について(糖尿病治療中、嚥下困難、夜勤の実際等)を実施している。新人研修はプリセプター(チェックリスト)で行っている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口市介護サービス連絡協議会に所属し、研修・勉強会に参加。ネットワークづくりをし情報交換している。他施設の運営推進会議への参加、また学生や他施設による現場実習の受け入れ等も行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前は必ず本人に見学か体験をしてもらい、施設の雰囲気を感じていただく。その上で不安が解消するように話をし、要望を聞き、説明をする時間を多くとることで、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困り事・不安・要望をしっかりと聞き、思いを受け止めるように努めている。面会時を始め、家族と積極的に関わり、小さなことでも相談していただけるような関係づくりに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今必要としている支援を見極めて、必要な助言や他事業所の紹介を行うこともある。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意見を尊重し、尊厳をもって接するよう心掛けている。日常生活場面では、家事や行事を通し様々なことを教わりながら、一緒に笑い合えるような関係性を築いていけるよう努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話、お便りで様子をお知らせし、行事に参加してもらい、相談をしたり受けたりしている。家族支援が必要な時はできるだけ協力を頼み、家族との時間を設けられるよう支援している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚・知人友人等の来訪、また選挙・法事・外出・冠婚葬祭等あれば、それに向けての支援を行っている。日常生活では会話の中に過去の友人や場所等の話題を盛り込み、記憶が途切れないよう支援している。	家族の面会や親戚の人、知人、友人等の来訪があり交流を支援している。家族の協力を得て法事や孫の結婚式への出席、曾孫との交流などの他、自宅周辺へのドライブなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話の輪に積極的に誘ったり、レクや行事等の参加を促しなるべく多くの時間をリビングで過ごし、皆と話せるよう工夫している。利用者同士の相性も考慮し、必要あれば席替え、レクや外出の際のグループ割りにも配慮している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても近況を伺ったり、入院されると病状や身体状況を把握しに面会へ行く。相談事があれば入院先のSWや看護師に情報提供していただき、話し合うこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に生活の様子や家族状況、グループホームに期待する事等を家族から聞き取り、またセンター方式のシートを活用し思いや意向の把握に努めている。(困難な場合は生活歴等とすり合わせる)思いや意向の変化に対応するため日常の様子やカンファレンスを基に、本人本位を意識し定期的に処遇の見直しをする。	入居時のアセスメントシートを活用している他、日々の関わりの中で、利用者一人ひとりに寄り添い、聞き取ったことばや情報を送りノートに記録して共有し、思いや意向の把握に努めている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時から生活歴や環境等を本人・家族から情報収集をし、入所前のサービス事業所やケアマネからも情報を得て把握に努めている。また入所前にカンファレンスを開き、全員で情報の共有・今後の対応について話し合う場を作っている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々観察し記録して職員間で情報交換し、現状の把握に努めている。心身の異常は常に看護師がいるので対応できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネを中心にカンファレンスを開き、看護師を通して主治医・薬剤師と連携しながら今後の課題とケアのあり方を話し合っている。また面会・行事参加・電話連絡等で家族とも積極的に会話をし、家族の気持ちも反映した計画を作成している。	計画作成担当者を中心にカンファレンス(管理者、利用者を担当する職員、その日の勤務者)を開催し、主治医や看護師、薬剤師の意見、本人や家族の意見や要望を参考にして話し合い、介護計画を作成している。6ヶ月毎にモニタリングを実施して見直している他、利用者の状態の変化など必要に応じて見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録しっかりと記入し、気づきや結果等も記入して申し送り、情報を共有することで介護計画の見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態の変化・家族の状況を踏まえ、カンファレンスを開き調整し対応策を検討している。ニーズに関して必要ならば転苑等も視野に入れ、対応にあたっている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々を招いた夏祭りや花火大会の実施、また演奏会へ出かけたり、様々なボランティアの方々との交流を通して、日常を楽しんでいただけるよう支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回訪問診療。また状態の変化あれば往診。治療状況を家族に伝え、家族の希望を酌んだ上で適切な医療が受けられるよう支援している。他科受診で必要ならばヘルパーでの通院介助も行い、円滑な支援となるよう努めている。	本人や家族の希望により、全員が協力医療機関をかかりつけ医とし、毎月2回の訪問診療を受けている。他科受診は家族の協力を得て支援している。受診後は必ず家族へ連絡し、職員間では申し送りノートで共有している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日1名は看護師が介護職と一緒に介助をしており、介護と看護で情報交換をしている。適切な受診や連携ができる関係が築けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は看護師が病院に付き添い情報提供を行う。入院中も様子伺いに面会している。退院時は病院からの情報を受けに行き、病院関係者との関係づくりを行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り対応しており、勉強会や研修等で学ぶ機会を作っている。家族・主治医と話し合いをして方針を共有。家族の気持ちの揺らぎにも配慮し、その都度主治医に相談しながら職員間で検討し、チームでの支援に取り組んでいる。	契約時に、重度化した場合に事業所でできる対応について、家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から看護師を中心にかかりつけ医へ相談し、方針を決めて共有して、本人や家族の希望に沿った支援をしている。看取りを行っている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故や急変時の対応について、勉強会の実施やマニュアル作成等をし事故防止に取り組んでいる。ヒヤリハット及び事故報告書は記録後、毎日のミーティング等利用して全員で具体案を検討。事故対策委員会を中心に傾向等を踏まえた上でまとめ、事故防止に取り組んでいる。	事例が生じた場合は、事故報告書、ヒヤリハット報告書に記録し、管理者や施設長で対応を話し合い、事故防止策を検討し、毎日のミニミーティングで具体案を検討している。月に1回のミーティングで事故対策委員会を中心に全職員で共有し、ひとり一人の事故防止に取り組んでいる。消防署の研修を受講している。内部研修(糖尿病患者の低血糖発作時の対応、喀痰吸引等)を行い、事故防止に取り組んでいる。全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全ての職員が応急手当や初期対応の実践力を身につける定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、消防署の指導のもと、昼間・夜間帯と状況別の避難訓練を行っている。(可能な限り利用者も一緒に参加)運営推進会議で地域の方に向けて、具体的な実施状況の報告をしている。職員の地域消防団の参加。	年2回(うち1回は消防署の協力を得て)昼夜間を想定した通報、消火、誘導、応急救護を行っている。運営推進会議で避難訓練を実施し、地域の人や家族の参加があり、終了後意見交換を行っている。地域の消防団に職員が加入し、火災訓練に参加している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格尊重、プライバシー保護、利用者の尊厳に関わる理解を深めるための勉強会を実施。利用者への対応に関し、施設長・管理者が客観的に見て気になる箇所あれば都度指導している。	職員は、内部研修で人格尊重やプライバシー保護、利用者の尊厳について学び、理解し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。スピーチロックや対応に問題があれば、施設長や管理者がその都度指導している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しかけを多くして本人の思いを聞き出している。訪問パン屋さんが来た時は、自分で選択・決定してもらうよう支援している。日常生活動作でも本人に確認し動作介助している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れは決めているが、体調や気分を考慮して本人に合わせて調整している。声掛けを多くして思いを聞き出し、希望に添えるよう支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本は自分で衣服を選んで着用していただいている。プロのメイクアップボランティアを呼び、おしゃれを楽しむイベントも開催している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事でのおやつ作りや、家庭菜園で採れた野菜の下ごしらえ等を一緒に楽しんでいる。食卓準備や後片付けは利用者と一緒に行う。食事は利用者・職員と同じテーブルでとり、会話をしながら楽しい雰囲気ですり介助をしている。	三食とも事業所で専任職員が調理している。外部からの食材に加え、家庭菜園で採れた野菜(さつまいも、いちご、ゴーヤ)を利用して、利用者は、下ごしらえや食卓の準備、後片付けなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルを囲み、職員は食事介助をしながら、会話をしながら食事をしている。季節の行事食やおやつづくり、外食、ウッドデッキでのティータイムなど、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の少ない方は主治医と相談し補食飲料を検討したり、食事形態を変更する等し本人に合わせたものを提供するようにしている。水分量は一日1000mlを目安に、拒否あれば時間をおき少しずつ勧めたり別の水分に変更等し工夫している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後洗面所で全員口腔ケアを行い、義歯や自歯の異常を早期発見し、必要であれば訪問歯科を依頼している。歯科衛生士にブラッシング指導や口腔ケア講座をしてもらい、支援のスキルアップを図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的、また本人の様子に合わせ声掛けしトイレ誘導を行っている。排泄の意思のない方、車椅子の方も日中はトイレにて排泄できるよう支援している。チェック表活用し排泄間隔を知り、使用するパットの大きさや枚数にも配慮する。	排泄チェック表を活用してパターンを把握し、一人ひとりに合わせた言葉かけや誘導で、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表に排便日を記録し下剤調整をしている。牛乳や野菜ジュースで排便コントロールできる方は、その人に合った方法で対応している。排便を誘発する座り方や介助方法等、職員間で情報共有する。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週二回以上の入浴実施。午前午後入浴可。湯温、量は本人の希望に沿うよう配慮している。リフト浴対応もあり。拒否あれば時間をずらす等して、週に二回はゆっくり入浴を楽しめるよう支援している。	入浴は毎日、10時から12時までと14時から16時までの間可能で、週2回は入浴できるように支援している。季節の柚湯、入浴剤をつかったり、清拭やシャワー浴、機械浴など、利用者の状態に合わせて支援している。入浴をしたくない利用者には、時間を変えたり声かけを工夫するなどして、個々に応じた入浴支援を行っている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝・起床時間は本人の気分次第としており、本人に合わせて午睡も提案している。寝具の清潔に留意し、室温も気にかけている。眠れない場合は、付き添い話を聞く事で安らいでいただけるよう支援する。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師と看護師で情報交換をし、薬に関して指導を受け、介護職に伝えている。介護と看護の情報交換も密にして薬の調整を主治医・薬剤師に相談する。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体操・歌等の集団レク、塗り絵・工作等の個別レク、各季節ごとの行事・誕生会、講師を招いてのレクの実施。また活躍できる場面づくりとして、食事の準備や後片付け、洗濯物干し・たたみ、収納等日常生活の役割を担っていただいている。	小学校の催し物、ボランティア((コンサート、ハモニカ演奏会、メイクアップ講座、フラダンス、習字、コーラス隊、ブラスバンド演奏会)との交流、家族交流会(年2回)、食事の下ごしらえ、テーブル拭き、食器洗い、花の水やり、洗濯物たたみ、ぬりえ、折り紙、早口言葉、しりとり、パズル、ことわざ遊び、計算ドリル、漢字ドリル、じゃんけん遊び、かるた、テレビ視聴、3B体操、歌体操、風船バレー、ピンポン、など、活躍できる場面をつくり、楽しみごとや気分転換等の支援を行っている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月の行事で出かけるようにしている。個々では買い物・散歩・ドライブ・ウッドデッキで日向ぼっこ等支援している。また家族・親族・知人の協力で食事等外出できるよう支援している。	季節の花見(紅葉、紫陽花、さくら、近くのコスモス等)、園庭で線香花火を楽しむ、ドライブ(維新公園、ザビエル、香山園)、買い物、ウッドデッキでのティータイムや日向ぼっこ、家族の協力を得て法事や孫の結婚式への出席、曾孫との交流など、戸外に出かけられるように支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望あれば金銭の所持は本人の自由としている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の状況、希望により家族と電話で話ができるよう支援している。希望あれば家族と相談し携帯電話所持も可能。手紙は来ることが多く本人手書きの返信はなかなかできず。今後受け取って嬉しい葉書が出せるようレク委員を中心に取り組んでいきたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中央のウッドデッキにより、リビングに光を沢山取り込み、明るい雰囲気の中過ごせるようになっている。温度・湿度は常に管理し、季節ものや作品を飾る等、心地よく過ごせるよう工夫している。廊下にも作品や写真を展示し、移動の際も楽しめるようにしている。	共用空間は自然の光が差し込んで明るい。台所から調理の音や匂いがして、家庭的な雰囲気が伝わってくる。テレビの周りに椅子やソファを配置して、利用者が思い思いにくつろぐことができる。壁には利用者の習字やぬり絵の作品を飾り、親しみやすい雰囲気をつくっている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに椅子やソファをたくさん置き、思い思いの場所に座ってもらえるよう配慮している。食卓は”自分の席”をつくることで、個人スペースを確保している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、好みの物、写真や仏壇等本人が居心地良い居室となるよう工夫している。いつでも見える場所に家族の写真を飾りたい等、本人の希望も積極的に取り入れている。	使い慣れた家具(ハンガーかけ、衣装ケース、整理ダンス等)、仏像、仏壇、時計、家族写真、化粧品、加湿器等を持ち込み安心して過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ表示や居室入口に花の図柄や名札等で分かりやすくしている。ウッドデッキにじょうろを置き、花に水やりができるようにしている。洗濯干しやたたむ作業は利用者中心で行い、自分の物は自分で片付けることで役割を担っている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム おいでませ

作成日：平成 29 年 6 月 25 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え ・事故に関する意識にバラつきがあり、個々の能力に差が生じている	全ての職員が応急処置や初期対応の実践力を身につける	・毎日・毎月のミーティング、運営推進会議で事故を振り返り、全職員で対策を検討する。 定期的にアセスメントシートを見直し、利用者1人1人の現在の能力を知る。 ・年に数回、勉強会で取り上げ、知識はもちろん応急処置・初期対応の実践訓練も実施する。	12ヶ月
2	36	○災害対策 ・年2回消防署指導のもと避難訓練をおこなっているが、実践力が身につけているとは言えない。 ・地震・風水害の対策も、おいでませに沿った内容のものに掘り下げる必要あり	突然の災害に対応できる能力を身につける	(火災) ・避難訓練を継続し、夜間想定、出火場所情報の事前提供なし等、リアルさを追求した訓練をする。 ・様々な設定の訓練をし、それに応じた順序の把握・チームプレーを身につける。 (地震・風水害) ・定期的に勉強会を実施し、知識を深めると共に火災同様、避難訓練を行う。 ・地域を把握し、最善の避難経路を探し出す。 ・防災グッズの見直し、また避難に必要な物品の場所を定期的に確認する。 ・おいでませに沿ったマニュアルを作成する。	12ヶ月
3	4	○評価の意義の理解と活用 ・外部評価を活用し、改善に役立てようという取り組みが、現時点で不十分 ・評価内容を全職員で共有し、グループホームとしての質の向上を目指したい	自己評価・外部評価を生かし取り組むことで、1つ1つの質をより良いものにする	・外部評価結果を共有する場を作り、1人1人の意識の向上を呼び掛ける。 ・定期的に現おいでませの改善点を出し合い、全職員で検討する(勉強会等で実施) ・他事業所を見学する等し、取り入れたい点を見つけ出し、実践してみる。	12ヶ月
4					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。